

9月24日～30日は 結核・呼吸器感染症予防週間 非結核性抗酸菌症予防週間です

<結核について>

- 県中地域の医療機関では、毎年、結核が診断されています。
 症 状：長引く咳や痰、微熱や倦怠感、体重減少、
 寝汗など。また、感染していても症状がない
 （発病していない）段階で見つかることもある
 治 療：6～9か月間、毎日きちんと薬を飲めば治すことが
 できる
 感染経路：空気感染（咳やくしゃみが蒸発して、結核菌が
 空气中をただよう）
 感染対策：基本的な感染対策が有効。特に、乳幼児は重症化
 のおそれがあるため、BCG定期予防接種が有効
- 早期発見・早期治療が重要です。
 毎年、必ず健康診断で胸部レントゲン検査を受けましょう。
- また、2週間以上かぜのような症状が続く場合は、
 放置せずに受診することが大切です。

<非結核性抗酸菌症について>

- 症 状：長引く咳、痰、発熱、呼吸困難など。初期には
 無症状で経過が緩やかな場合もある
- 治 療：複数の抗菌薬を使用。病状等によって経過観察
 することもある。
- 感染経路：非結核性抗酸菌は土や水などの自然環境、浴室
 のシャワーヘッドや水道の蛇口等に生息してお
 り、菌を吸い込むことで感染する
- 早期発見・早期治療が重要です
 長引く咳や痰などの症状がある場合には早めに医療機関を受
 診しましょう。

1年間で
(2025年)
新規登録者数
9,899人
死亡者数(推定)
1,474人

結核は
令和の日本にも
あります

早期受診
早期診断
で正しい治療を！
せき・たんが2週間以上続いたり、微熱
や体のだるさが続く場合は、早めに医
療機関を受診しましょう。

多量にわたる疾患があり
基本的な感染対策
が有効

呼吸器感染症には、インフルエンザ、
新型コロナウイルス感染症、細菌
性肺炎などがあり、手洗い、換
気、咳エチケットなどの基本的な
感染対策・予防が有効です。

正しく知ろう
呼吸器
感染症
のコト

さまざまな
症状がみられる
非結核性
抗酸菌症

非結核性抗酸菌症では、長引くせきやた
ん、発熱、倦怠感、体重減少などのさま
ざまな症状がみられますが、結核とは異
なり、通常は人から人へ感染しません。

NTM(nontuberculous mycobacteria): 非結核性抗酸菌

CLINIC
住まいの近くの
呼吸器内科を受診！
診断や治療に時間がかかることがある
ため、症状が続く場合は早めに受診し
ましょう。

インフルエンザの流行に注意しましょう

- 「A型」が流行しています。流行シーズンに入っており、今後も注意が必要です。
 症 状：38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状、喉の痛み、鼻汁、咳
- 手洗いの徹底や、冷房使用時にも適度な換気を行う等、基本的な感染対策を心がけましょう。

例年より早く流行し
ているため気を付け
ましょう。

基本的な感染対策をお願いします

